



## 会 合 (48年8月～9月)(かっこ内は出席者数)

**第3回理事会** 48.9.11(9) 議題 1. 第2回理事会議事録の承認 2. 細則の変更の件 3. 48年度上半期決算と下半期の推移の件 4. 会費値上の件 5. 会費未納者の処理の件 6. 学会マークの件 7. 評議員会開催の件 8. 入退会の件 9. 48年度春季研究発表会の件 10. 研究部会設置の件 11. 48年度秋季研究発表会の件 12. 研究受託に関する内規の件 13. 75年IFORS・TIMS大会の事業計画および予算案の件 14. 48年度春季大会決算書の件 15. 各担当理事の業務分担の件 16. その他

**広告委員会** 48.8.6(3)

**IFORS常任委員会** 48.8.20(7), 48.9.19(10)

**IAOR委員会** 48.8.28(1), 48.9.19(1)

**研究普及委員会** 48.9.7(13)

**IFORS財務委員会** 48.9.14(4)

**組織強化委員会** 48.9.21(8)

**編集委員会** 48.9.25(5)

**OR金曜サロン** 48.9.12(9) 第40回“政治・経済・社会問題へのOR的アプローチ”

**国際幹事会** 48.8.28(3)

**庶務幹事会** 48.9.29(10)

**会計幹事会** 48.9.7(7)

**編集幹事会** 48.9.21(8)

**入退会**(48年7月3日より9月10日まで・9月11日第3回理事会にて承認)

## 入 会

〔正会員〕

石井春正(栗田電気製作所)・市村久恒(野村証券)・一村 稔(岡山理科大)・大串 明(日立)・菊池昌利(巴組鉄工所)・岸本有豊(日本電気)・小

島光造(コンピュータ教育センター)・小山 弘(住金海運)・椎塚久夫(工学院大)・茂野征二(与論科学協会)・島田生徳(三井海洋開発)・田島邦明(センチュリ・リサーチ・センタ)・高橋敬二(持田製薬)・谷口君雄(北海道自動車短大)・中山幹夫(東工大)・二階堂正直(北大)・細川武一(住金海運)・光成豊明(明大)・南 正義(九大)・森岡 健(三菱信託銀行)・脇本和昌(岡山大)・P. A. Araya (アメリカ) 〔以上22名〕

〔学生会員〕

相原憲一(早大)・上野貫男(日大)・木股 勝(千葉工大)・黒沢敏朗(大阪府立大)・坪井利憲(早大)・中田善啓(大阪府立大)・中村健二郎(東工大)・西尾紀慶(千葉工大)・宮本訓行(千葉工大)・谷津 進(東工大) 〔以上10名〕

〔賛助会員〕

正興運輸倉庫(株)・(株)竹中工務店開発計画本部・(株)日本組織技術研究所・(財)日本情報処理開発センター・日本鉄道建設公団・京成電鉄(株) 〔以上6社〕

## 退 会

〔正会員〕

伊知地幸文・吉原友吉・伏見 彬・阿久津知子・安斉治美・坂井 泉・佐藤昌夫・杉山篤男・高野茂樹・竹内康斉・高丸英俊 〔以上11名〕

## 会員計報

**梅林 光寿 殿** 神戸商科大学管理科学科

1973年8月11日、結腸ガンのため死去されました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

## IFORS・TIMS 国際会議論文募集のお知らせ

たびたびご報告いたしましたとおり、昭和50年7月には、IFORS と TIMS の国際会議が東京および京都で開催されます。この会議には海外より一流の理論家、実務家が来日されて、前後約10日間、特別講演、研究発表、実例研究会 (workshop)、現場討論会 (field trip)、夜店式発表会 (forum) など多彩な催しが計画されております。

しかし国際会議では、なんといってもよい論文が発表されることが一番です。とくにこのたびは日本が開催地で、日本オペレーションズ・リサーチ学会が主催団体ですので、会員から多数の論文発表があることが望まれます。

過去の6回のIFORS国際会議には、毎回若干の会員諸氏が参加され、よい論文を発表されてきました。このような日本の実績が、次の大会をわが国にもたらしたものといたしましょう。

しかし海外での国際会議に参加することは、費用や日程の問題で必ずしも容易ではありません。したがってこの機会に、大勢の方が平素のご研鑽の成果を発表され、国際的な検舞台上で活躍なさることを期待しております。

最終的なプログラムは国際プログラム委員会の決めるところですが、IFORSには近藤が、TIMSには宮沢が委員として加わっておりますし、本学会の主張も多少は容れられるものと期待しますので、どうか今から準備されて、よい論文を多数投稿されるようお願いいたします。

IFORS と TIMS とで、その組織の性格上、多少募集の要領が違います。また国際プログラム委員会の決定によって多少の変更が行なわれるかもしれませんが、とりあえず次のスケジュールで論文を公募します。

### IFORS '75

- 1) 論文アブストラクト (英語または仏語) : 400語程度

- 2) 締切り : 昭和49年6月30日
- 3) 送付先 : 日本 OR 学会 IFORS プログラム委員会
- 4) 備考 : 応募論文の採否は7月31日までに通知いたします。

代表論文 (2 篇) は8月31日までに全文の提出をお願いいたします。

なお本件については、日本 OR 学会 IFORS プログラム委員会にお問い合わせください。

### TIMS '75

IFORS '75に続いて開催される TIMS '75の諸準備も着々と進められています。TIMS '75では希望者は誰でも参加でき、そして論文も発表することができます。TIMS 大会のプログラムは、目下ニューヨーク大学の Starr 教授が委員長となって構想がたてられておりますが、大略は下記のような線に沿うことに決定しております。大会テーマ "The Time has come" の下に

- 1) National Economic Policy, Multinational Company (国家経済政策、多国籍企業)
- 2) Game Theory Applications (ゲーム理論の応用)
- 3) Planning Models of Government and Business (政府および企業における計画モデル)
- 4) Finance (財務問題)
- 5) その他 (内容は任意)

主催者として日本 OR 学会、TIMS 日本支部でも宮沢光一教授の下で(1)~(4)はもちろんのこと、(5)でもわが国の特色を打ち出すべく計画が進められています。会員はふるって論文の発表を行なわれんことを！ 発表希望者は1974年6月30日までに、アブストラクト原稿 (英文 400 語) を提出してください。詳細は学会事務所へ問い合わせのこと。